

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1455
施設名	クローバーこども園
施設所在地	墨田区八広1-16-22
法人名	社会福祉法人愛理会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

本プロジェクトでは「昆虫×探究」をテーマとし、様々な活動を通して、昆虫に対する気づきや理解を深め、表現力を向上させた。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

2. 活動スケジュール

本プロジェクトに関する打ち合わせは9月ごろから進めており、協力企業である株式会社BYDと共に全体を通してどんな学びの実現をしたいか、どんな体験を提供できるかを話し合った。10月からは実際に子ども向けの企画を行い、合計4つの企画を提供した。具体的に実施した企画は以下のとおりである。

- ・10月 大学生による昆虫を知るためのクイズゲーム
- ・11月 昆虫や植物と出会うための公園散策
- ・1月 生物園にて、様々な動物や昆虫にであう
- ・1月 木粉粘土を使って自分が好きな昆虫を作ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

株式会社BYDに協力を依頼し、講師としてさまざまな活動をしていただいた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

本プログラムでは子どもたちが様々な体験を通して、昆虫に関する探究心を育む場を提供した。

はじめに行った昆虫クイズゲームでは、世の中にはどんな昆虫がいるのか、どんな特徴を学ぶのかをクイズ形式で行うことによって、楽しみながらしっかりと考えることができた。子どもたちはただ答えを言うだけではなく、解説にも耳を傾けており、昆虫への興味を向上させることができた。

次に行った公園散策では、気温が下がっていたこともあり、大量の昆虫と出会うことはできなかったが、それでも昆虫と出会うたびに子どもたちは反応を示しており、必死に木の周りを探したり、草の周りを探したりしていた。また、一緒に同行した大学生スタッフやBYD社の方にも「これみてー!」「なんて虫だろう?」と話しかけており、積極的にフィードバックを受け取りに向かっていた。

3回目の活動では生物園に行き、大量の蝶々と出会った。生物園には子どもに昆虫文化を伝える活動をされている専門家の方々にもきて頂き、実際に解説を聞きながら、蝶々の特徴や性質を見ながら学んでいた。また、昆虫以外の生き物にもたくさん触れることができ、生き物や命に対する理解や気づきを得られるきっかけとなった。

その後に行った木粉粘土を活用した昆虫の模型作りでは、今まで出会ってきた昆虫や図鑑で見たことのある昆虫を自分なりに表現しながら制作を行っていた。友達が作っている様子を見ながら、自分はどんな工夫ができるかを考えたり「それどうやるの?」って聞いたりして

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

子どもたちは楽しそうにしている姿がたくさん見られ、クイズゲームの際は前のめりになって答えており、正解をすると喜びが爆発している子どもがたくさんいた。また実際の昆虫と出会った時は目を輝かせながら「蝶々だー!」「蛾がいたよー!」「これなんのむしー!？」と楽しそうに声をかけてくる様子が見受けられた。喜びや気づき、疑問が生まれる瞬間が多くあり、友達と楽しそうに話したり、考えたりしており、「学び合い」ができていた。保護者には活動を撮影した写真や、様子をまとめた動画を作成し、保護者会で流すなど、本プロジェクトの様子や成果を報告した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本プロジェクトの企画は撮影や録画、メモをとることによってたくさんの記録を残すことができていた。それらを見ながら振り返りを行い、多くの良質な気づきが得られた。実際に得られた気づきは以下のとおりである。

- ・ 正解を教えるのではなく一緒に「なんだろう?」と考えてあげることが大切
- ・ 子どもたちの発言に耳を傾けた上で反応やフィードバックを返すことが大切
- ・ 専門家を呼ぶことによって子どもたちが積極的に疑問を投げかけやすくなった
- ・ 大学生のスタッフが協力してくれたことにより、作業しながら子どもたちが沢山会話ができるようになった
- ・ 実際に昆虫と出逢いに行く経験をする子どもたちが昆虫に対する興味関心が向上していることが目に見てわかるような変化が生まれ、その後も昆虫に関する発言が増えたように感じられた
- ・ 本プロジェクトを通して、考えることや表現することが好きになった子どもが多く、そういった場を作ったり、伴走したりする仕組みが大切であることに気づけた